

3 重点安全施策の内容と進捗状況

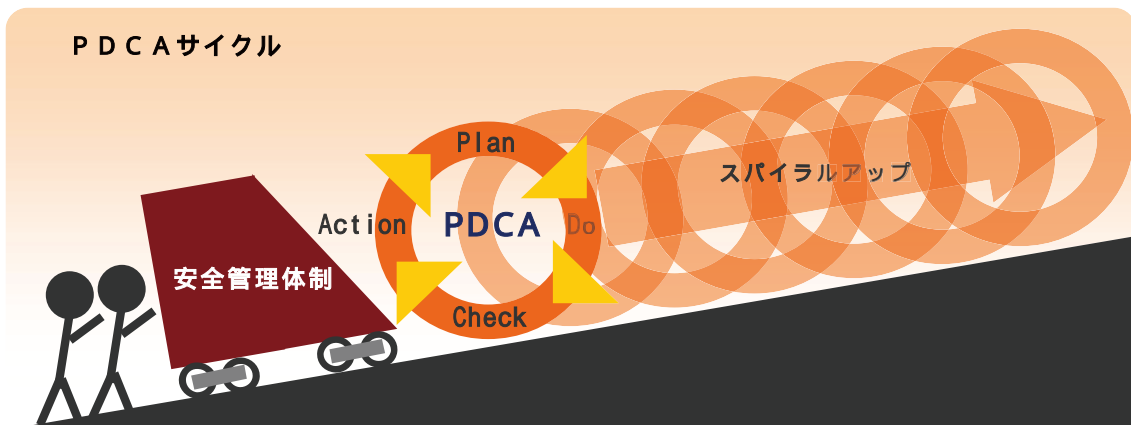
2009年安全報告書 阪急電鉄株式会社

3-1 安全意識の高揚・安全対策

1 「安全意識」を醸成するための取り組み

1 PDCAサイクル

安全最優先の意識を徹底させるため、計画（Plan）→行動（Do）→確認（Check）→改善（Action）→新しい計画（Plan）の実行を全社的に拡大し、スパイラルアップを図っています。また、毎年度、年度計画（Plan）→実施（Do）→内部監査（Check）→年度計画実施結果見直し（Action）→次年度計画の策定（Plan）のPDCAサイクルで各種安全施策を進めています。



2 安全講習会

輸送の安全に関するテーマをもとに、社外から講師を招いて講演やセミナー等を実施し、安全意識の高揚を図っています。

2008年度は、G8北海道洞爺湖サミットに伴い大阪、神戸、京都において大臣会合が行われたことから、テロに対する意識を高める講習会を実施しました。

日時 2008年5月21日(水)10:00～12:00

場所 本社エコルテホール

講師 社団法人・日本鉄道運転協会
高柿幸夫氏

テーマ 「鉄道に対するテロとその対応」

聴講者 約200名

また2006年度から継続して、ヒューマンエラー防止に関する講習会を実施しています。

日時 2008年5月30日(金)9:30～11:30

2009年2月4日(水)9:00～11:00

場所 本社エコルテホール

講師 JR東日本パーソネルサービス
関口雅夫氏

テーマ 「事故に潜むヒューマンエラーの実態～ヒューマンエラーに対策はあるのか～」

聴講者 各約200名



2 「事故の芽」の報告の徹底と分析及びその対策

事故やインシデントに至らない軽微な事象を「事故の芽」と捉えて抽出し、分析や対策を検討する危険予知活動（KY活動）を続けています。運転部門では、各係員が経験した事故の芽に関する事象を「KYシート」に記入して「KY BOX」に投函することで抽出しています。毎月集約して、KY会議において分析ならびに対策を検討し、テーマ（例・扉の開閉等の操作・ブレーキ操作・指差確認喚呼等）別に、各事象とその対策等を「KY新聞」にまとめて各現場に掲示し、事故の再発防止を図っています。このKY活動は、各職種別に拡大を図っています。また、中には、設備改善に至った事例もあります。（下記②参照）

- ・2003年～ 運転KY（運転士や車掌の業務に関する事例）
- ・2007年～ 信号KY（信号士の業務に関する事例）
- ・2008年～ 指令KY（運転指令業務に関する事例）
- ・2009年～ 監督者の気がかり事象

1 仕組み



2 設備改善に至った事例

事故の芽… 曲線ホームの駅等、車掌がお客様の乗降を直接、目視で確認できない駅には、車掌用の監視カメラとモニターを設置して安全を確保しています。しかし、カメラ設置後、園田駅と春日野道駅では、太陽との位置関係でモニターが見えにくくなると乗務員から指摘を受けました。

分析内容… 季節や時間帯によっては、太陽との位置関係によってモニターが見えにくくなることを確認しました。

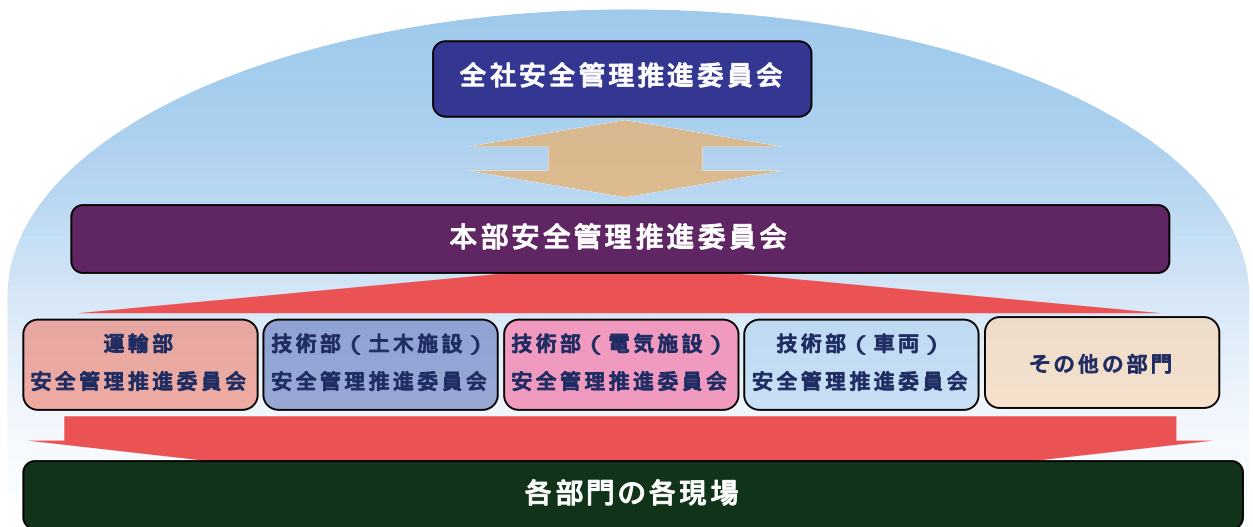
改善事例… 太陽光を隠すための日よけの位置と大きさを検討し設置しました。この日よけにより、車掌は全ての時間帯において、モニターでホーム上のお客様を監視しやすくなり、安全性が向上しました。



3 情報伝達・共有化の取り組み

1 安全管理推進委員会における情報伝達協力体制

輸送の安全に関する様々な情報は、下図のような仕組みで共有化しています。



2 情報伝達とコミュニケーションの充実

社長及び都市交通事業本部長の巡視時の意見交換

社長や都市交通事業本部長等が巡視を行う場合は、現場の実状把握の他、係員とのコミュニケーションを充実するよう輸送の安全をテーマにして意見交換会を設けて、風通しのよい社内風土作りに努めています。



フリーディスカッションミーティング

巡視時以外にも社長や都市交通事業本部長等は積極的に現場へ赴き、テーマを設けず意見交換を行う「フリーディスカッションミーティング(FDM)」を実施しています。

このFDMでは、業務に関わらずレクリエーションや日常生活に至るまで、テーマを限定せず、また職位や部門に関係なく円滑なコミュニケーションを促進すべく実施しています。



ナイトトーク

都市交通事業本部長や各部門長等は、部下とのコミュニケーションを更に充実するため、様々な部門の係員とざっくばらんに意見交換する機会を設けています。

4 事故再発防止に向けた取り組み

1 事故防止対策検討会

事故が発生した場合は、事故防止対策検討会を開催し、原因分析や再発防止策を検討します。また、他社の事故も当社に置き換えて想定し、対策や現状報告を行い類似事故の防止に努めています。

複数の部門に関係する事故は本部で、単独の部門での事故は、当該部門で再発防止策を検討し実施しています。

事故防止対策検討会で取り扱った事故は、2007年度末にデータベース化を図りました。このデータベースを活かして、現在、過去の事故の対策やその実施状況を検証する「自社事故アーカイブ」の取り組みを始めています。月毎の本部安全管理推進委員会で検証対象とする事故を選択し、事故当時、実施した対策が現在も効果を得ているのか、あるいは事故の教訓を伝承できているか等を1ヶ月かけて再検証しています。

検討会開催事例

本部事故防止対策検討会

- ・2008年9月20日 甲陽園駅構内列車事故

各部門事故防止対策検討会

- ・2009年1月17日 甲陽線扉扱いに関するインシデント

上記事故やインシデントの詳細は、「鉄道事故等と再発防止策」の項をご参照願います。

他社事例 年 月 日 A社 列車脱線事故

本線と保線基地への引き込み線がつながる部分で、始発の普通列車が工事車両を線路に入れるため使用する移線横取装置に乗り上げ、脱線事故が発生した。

当社対策

- ・類似装置の有無の確認 → 同様の装置を使用しているがATSと連動しており同事例の発生の可能性はない。
- ・類似装置使用時の取り扱い → 作業後、作業責任者の確認と運転指令への連絡及び運転指令の軌道異常の確認により、安全を確保している。

2 運転保安向上検討会

この検討会は、運転や土木施設、電気施設、車両の各部門が連携して、ATS装置、踏切保安、ホーム保安等、様々な課題について検討を続けています。

また、検討会の下部組織として「ホーム保安検討WG」と「次世代運転システム検討WG」を設けて、更に専門的分野における様々な研究検討を続けています。

- ・ホーム保安検討WG（2008年度～）

ホームのお客様の安全を確保するため、軌道内に転落した場合や転落させない施策について検討しています。

- ・次世代運転システム検討WG（2009年度～）

将来のATS（自動列車停止装置）装置やTTC（列車運行総合制御システム）装置の次期システムの検討を行っています。

3 他社事故事例の周知と事故防止啓発

鉄道事故に関する保安情報や事故情報は、各現場の係員一人ひとりまで周知して、類似事故を防止するよう啓発を行っています。また、各鉄道事業者と連携を図ってタイムリーに事故情報を収集して各部門に提供する等、事故防止に役立てる啓発活動を行っています。

5 教育・訓練

1 安全管理体制に関わる教育

年度毎に輸送の安全に係る教育計画を策定し、輸送の安全に係る全社員に計画内容の周知徹底を図り、一致協力して実施するよう取り組んでいます。また、各部門においても運輸安全マネジメント等に関する各種教育を実施しています。

- ・基本教育（運輸安全マネジメント・年度安全計画）…対象：社長以下関係社員
- ・内部監査員教育（内部監査・I S O）…対象：内部監査及び鉄道安全監査実施者
- ・安全講習会（P12 参照）

2 コーチングセミナー

コミュニケーション能力を向上させるため、主に監督者を対象にしてコーチングセミナーを実施しています。また、その効果を高め持続させて行くために、教育終了一定期間後にフォロー教育を実施しています。その他、経験の浅い係員や次代の職場の核となる人材の育成と技術の伝承を進めています。



3 外部教育セミナー

安全管理体制や内部監査員の教育の他にも様々な教育やセミナーを受講し、それぞれ社内教育へと展開して能力向上に努めています。

- ・安全マネジメント体制構築及び運営研修
- ・内部監査担当者等向け研修
- ・研修効果測定と評価のためのアンケート設計と分析評価
- ・安全の人間科学



4 教習所・人材育成センター

- ・運輸部教習所

動力車操縦者（運転士）や車掌、助役等を養成する教習所（国土交通省認定）を設けています。施設内には、運転シミュレーターをはじめ車両や信号、駅務に関する教材の他、C A I（コンピューター支援による教育システム）を設備しています。

また、A E Dや心肺蘇生の教育のほか、高齢者の身体的機能の衰えや心理的变化を実感する器具を使用した体験を通じて、心のこもったお客様対応ができる人材育成に努めています。

- ・人材育成センター

教習所に隣接して人材育成センターを設け、駅業務やサービス教育を専門的に行い、質の高い駅係員を育成しています。



5 技術研究及び技術向上

運転部門...車内案内放送コンテスト

日時... 2009年2月27日(金)14:30~17:30
場所... 本社ビル エコルテホール
参加者... 阪急電鉄・阪急レールウェイサービス
概要... 「お客様にとってわかりやすい放送を追及すること」を目的として、基本放送や異常時の放送等、車内案内を課題としたコンテストを開催しました。



運転部門...接客サービスコンテスト

日時... 2009年3月15日(日)9:30~13:30
場所... 本社ビル エコルテホール
参加者... 阪急電鉄・阪急レールウェイサービス・能勢電鉄・北大阪急行
概要... 駅における「接客レベルの維持向上」を目的として、「好感の持てる接客姿勢・態度・言葉遣い」「駅の美化」「防犯防止」を意識した営業関係の取り扱いやご案内をテーマとしたコンテストを開催しました。



土木施設部門...保線作業コンテスト

日時... 2008年10月17日(金)13:00~16:00
場所... 西宮車庫
参加者... 阪急電鉄・レールウェイテクノロジー
概要... 保線の係員を対象にして、教育効果の検証や技術の伝承、線路保守作業の習熟度を確認する目的でグループ会社と合同で技能コンテストを開催しました。



電気施設部門...小集団活動テーマ研究発表会

日時... 2009年3月6日(金)14:00~17:00
場所... 本社ビル エコルテホール
参加者... 阪急電鉄・阪急阪神電気システム
概要... 社員の自発的な課題解決に対する取り組みを推進するために、各職場にて数名の小集団を形成し、1年間、作業手順・工具・設備等の改良等に取り組み、その成果を発表しました。



車両部門...技術研究発表会

日時... 2009年3月11日(水)13:00~16:00
場所... 西宮車庫
参加者... 阪急電鉄・阪神電鉄・能勢電鉄・北大阪急行電鉄・神戸電鉄・グローバルテック・アルナ車両
概要... 調査・研究の成果や技術習得と技術水準の向上を目的として、年2回定期的に開催しています。また、技術の伝承を目的として、経験豊富な先輩諸氏の苦労話や技術論に関する講演会を同時に開催しました。



6 安全考学室

2009年5月、運転士や車掌を育成する施設である教習所内に、過去の事故を学ぶ「安全考学室」を設けました。2009年度は、営業開始から100年を迎えます。また、1984年の六甲事故から25年となる節目の年でもあることから、過去の事故から運転保安に関する各システムや規程が構築された背景を学び、業務に活かしていきます。



六甲事故（1984年5月5日）

事故当時、山陽電鉄と当社は、相互直通乗り入れ（列車と乗務員）を実施していました。事故は、特急列車を待避する予定の山陽回送車が、ATS確認操作により六甲駅4号線から停止信号を盲進して本線路に進出したところ、通過しようとしていた阪急特急車が衝突して脱線しました。73名の重軽傷者を出しましたが、負傷した当社の運転士が迅速に反行防護にあたったことから二次災害を免れました。



7 都市交通事業本部合同訓練

各部門が連携した対応が求められる大規模災害や事故を想定して、毎年、都市交通事業本部合同訓練を実施しています。2008年度は、社長自らが陣頭指揮を取り、下記想定にて実施しました。

日時・場所

2008年11月18日（火）13:00～16:00 宝塚線 平井車庫

目的

テロによる列車内爆破に伴う、情報伝達、お客様避難誘導及び復旧訓練

想定

- ・在阪A社のターミナル駅のトイレで爆破事件が発生。A社以外での犯行を予告。
- ・第1300列車において、豊中駅出発後、2両目と3両目の間で不審物発見。
- ・走行中、不審物が爆破したが、事前に避難していたため死傷者なし。
- ・お客様の避難誘導及びAEDの措置。
- ・犯行声明及び蛍池駅・西宮北口駅・淡路駅に爆弾を仕掛けたと電話が入る。
- ・西宮北口駅、淡路駅、蛍池駅で不審物を発見し、警察及び消防による撤去。
- ・土木施設及び電気施設、車両の事故復旧訓練実施。

